

剣道部玉竜旗準優勝

激闘の延長戦

七月二十九日、マリメッセ福岡、決勝戦。対戦相手は平成元年と同じ熊本阿蘇高校。元年には、「延長六秒、捕まの剣、九州の剣、劇的な幕切れ」で、大塚が栄冠に輝いた。再び因縁の対決。最大の強敵は全九州大会個人の覇者、阿蘇の大將古沢伸晃選手。そして過去二度決勝戦に出ながら優勝を味わえず、「阿蘇は女子」といわれ続けた「屈辱の阿蘇・男子の本懐」であった。迎える大塚は大將・上原祐二(三年)を中心に副将・内海潤一(三年)・中堅・藤井正司(三年)・次鋒・砂川篤(二年)・先鋒・実淵英明(二年)のメンバ―。黒木監督が掲げた今大会の目標は八強入りであった。昨年福岡県勢はベスト8に一枚も残れない屈辱を味わったためであったとか。



四回戦(不戦二) 埼玉栄
五回戦(不戦二) 横浜
六回戦(不戦二) 柏屋高校

そして、準々決勝で優勝経験がある佐賀三養基高校とあった。ここで勝利したら目標のベスト8。延長の末、大將上原がメンで決めた。監督は密かに「これはいけるかもしれない」と思った。そして、昨年優勝の九州学院を準決勝で破ると、ついに決勝戦。大將上原は阿蘇の副将をメン二本で逆転し、大將戦では延長三回の激闘の末、一瞬のスキを突かれ、メンを奪われ敗れた。



攻める大將の上原君

十一年度の大塚スポーツ

今年度はやはり、剣道部の玉竜旗準優勝が光る。五度目の準優勝である。インターハイ個人にも上原君が出場した。その他個人では、柔道の南君、坂本君、田島君がインターハイに。また駅伝部、陸上部、水泳部も個人でインターハイ出場者を出した。注目は弓道同好会。初の県大会優勝(団体)で全国出場。そしてなんと、ベスト8入りを果たした。バスケ部もインターハイベスト8、ウインターカップの出場は、五年連続二十五回目となる。

さてミレニアムを迎えた今年、チームワークをモットーに、立て直しをはかる硬式野球部、戦力的に充実し、都大路復活が待たれる駅伝部、春高県予選準優勝のバレー部など、一気に爆発の予感がする。同窓会でも力を合わせて応援しましょう。



全国ベスト8の弓道

速報!

テニス部

春の全国選抜大会出場

柳川・九國大付とともに、全国選抜大会に出場が決まりました。十九年ぶり、二層目の出場となります。三月二十二日より四日間、北九州市で行われます。

中高一貫一期生高校へ

平成八年春に開校した大塚中学校であるが、平成十一年春、その一期生七十九名が高校に進学した。元気はつらつの高校一年生である。この春、新二年へ進級する予定の現一年生は、彼らを含め六七八名。平成十四年の春には、初めての中高一貫生の卒業となる生徒たちである。創立五十周年を経て、二十一世紀へあらたな歩みを進める大塚学園の息吹が、今、学校の中に感じられる。今春の中学校入試もさる一月二十二日に行われた。周辺の多くの私立中学校が志願者を減らしているなか、大塚中学は、逆に志願者を増やした。二十一世紀へむけて、大塚という学校が、社会的に大きな期待を担っていることの証明であると思われる。我々同窓生もお一層、その絆を強め、大塚中高校の発展を祈りたいものである。

平成十一年春大学進学実績

最近の国公立大学への実績は年度によって多少の差はあるが、一五〇名から二二〇名の合格者を出している。例年の主な進学先は、九州大二〇、三〇名。九州工大に二〇名前後。その他長崎大・熊本大・山口大・鹿児島大・福教大などにそれぞれ五〜十五名などである。本校の場合、志望する大学が広範囲にわたるのが一つの特徴となっていて、四〇もの国公立大に合格者を出している。九大の合格者は例年より少なく十五名であったが、同レベル以上の京都大・大阪大・筑波大・神戸大・北海道大などを合わせると三十名以上になる。特筆すべきは、東京芸術大への合格者が出た

ことである。

私立は、福大に三五〇、四〇〇名、西南大に七〇、一〇〇名と安定。関西学院大・関西大学・同志社大学・立命館大学には、平成七年に合計で一〇〇名を超え、この年一三八名とその数を伸ばした。関東では早稲田大・慶応大・上智大に合計四〇名程度、明治大・立教大・法政大・中央大・青山学院大などに合計七〇名程度と、その実績を伸ばした。また、医療系には国公立私立あわせて三十七名が合格している。

秋の褒章に卒業生二人が輝く

平成十一年十一月一日に、秋の褒章の授章者が政府より発表されました。県内からは、前年より七人多い三十七人うち女性三人が受賞しました。ひとつの仕事を長年携わり、卓越した技能を持った人に贈られる勲章に、本校卒業生二人が受賞しました。その方は、同窓会長の安藤文六氏(二回生)と清野敬太郎氏(定時制四回生)です。安藤文六氏は、長年の道路建設通商技術で受賞されました。清野敬太郎氏は茶室の壁の骨組みとなる竹で編んだ伝統技法「えつり」の技が光る左官で、見事に受賞されました。清野敬太郎氏は、平成九年十一月にも労働省の「現代の名工」に選ばれています。受賞おめでとうございます。益々の活躍を期待いたします。



安藤文六氏



清野一徹太郎氏